

# 学生の絵本選択に関する現状と課題

—— 読書記録やアンケート調査を中心に ——

## The Problems and Situation Related to Student's Choice of Picture Books

—— Based on Reading Records and Questionnaire Surveys ——

山 田 千 春\*<sup>1</sup>  
YAMADA Chiharu

### 要旨

保育科における学生の絵本選択の現状と課題を明らかにするため、学生から記載してもらった「読書記録」とアンケート調査をもとに分析を行った。その結果、自宅にある絵本の冊数は4分の3強の学生が30冊程度におさまり、学生が短大の2年間で読んだ絵本の冊数や絵本の購入冊数も総体的には多くはなかった。学生の絵本選択については、長きにわたって評価され続けてきた絵本を選ぶ傾向がみられ、しかも、創作絵本に偏っていた。同じく、「読書記録」に多く採用された作家も長い期間、評価されてきた作家であったが、先行研究の調査から比較すると一部、新しい作家も見受けられた。学生の絵本の選書理由は、「幼少期から読んでいて、好きな絵本だから」が最も多く、次に「実習先で読み聞かせた絵本だから」などが多かったが、大学の授業で知った絵本を採用している学生は少なかった。以上のような学生の絵本選択の現状と課題から、次年度の絵本指導は、学生の絵本の読書量を高めていく指導、1冊の絵本を深く読み込んでいく指導、絵本の指導を行っている科目間での連携、大学図書館の利用活性化につながる授業の取り組みなど、以上4点を行うべきであることが明らかとなった。

### 1. 問題と目的

本稿の目的は、保育科における学生の絵本選択の現状と課題を学生から記載してもらった「読書記録」とアンケート調査を中心に分析し、今後の保育者養成校における絵本指導のあり方について考察することである。

絵本は、幼児にとって新しい言葉や表現力などに触れる機会を与え、想像力を豊かに育むことができる。そのため、絵本の読み聞かせは家庭だけではなく保育現場では欠くことのできないものであり、ほぼ毎日のように読み聞かせが行われている（藤岡・伊藤 2016）。

絵本の読み聞かせにおいては、読む技術だけではなく、何を読むか、つまり絵本の選書が重要

---

\* 1 札幌大谷大学短期大学部保育科

である(横田・渡邊・井口 2021)とし、学生に選書の知識を身につけることができるような先行実践が行われてきた。例えば、大野(2015)は、学生が学生同士や近隣の保育所・幼稚園において異なる絵本の読み聞かせを行い、それぞれの絵本について、学生に挿絵や文の比較をさせている。峰本(2017)は、グループごとに分担を決め、①作者について②絵本が作られた背景について③絵本のストーリーの特徴・魅力について④絵本自体の特徴・魅力(絵の描き方、本としての作り方など)について学生に調べさせることを通して、1冊の絵本を深く探究する授業を行っている。横田・渡邊・井口(2021)は、学生に多くの絵本を授業のなかで紹介し、手に取ってみる時間を保障することと、絵本作家の特別講義を実施して、授業前後の学生の絵本に対する意識の変化を明らかにしようとした。保育者養成校だけでなく、教員免許状更新講習における教師に向けた絵本選書の研修会の実践などもある(梶谷・脇・湯澤・片平 2015)。これらの授業実践を通して学生や受講者は、絵本に対する見方や認識が変化してきており、保育者養成校において絵本の授業内容を検討していくうえで、どれも参考になる実践ばかりである。

筆者は、学生の選書の知識を意識した取り組みではないが、何よりも学生により多くの絵本を読んでもらう機会を設けていく必要があると考え、2年生後期の「児童文学」の受講者に各自読みたい絵本を選択させ、絵本の選書理由と感想文を記載する課題に取り組んでもらった(以下、この課題を「読書記録」と呼び、全10回実施)。毎回学生から提出される課題を確認していると、学生の選択する絵本とその選書理由にある傾向(特徴)がみられることに気がついた。短大2年生の後期は、ほとんどの学生が保育所実習・幼稚園実習を終え、短大入学直後とは異なる個々の絵本に対する認識が深められている時期であると考えられる。この時期の学生の選書傾向を文章に整理し、次年度以降の絵本指導を計画・実施する際の参考にしていきたいと考えたのが本稿執筆の動機である。その他、補足的なアンケート調査を学生に実施し、学生の絵本との関わりも含めて、検討を試みていきたい。

## 2. 方法

保育科2年生の「児童文学」を受講している73名に対して、「読書記録」を10回提出してもらった。「読書記録」とは、自分の好きな絵本を読んで選書の理由と感想を書いてもらったもので、絵本のタイトルと作者名も記載されている。絵本のジャンルなどは毎回、特に指定していない。10回の提出のうち初回の1回目は用紙で提出してもらい、2回目以降はGoogle Classroomより提出してもらった。今回の分析は、初回の1回目を除いた2回目以降の9回分の提出課題のうち、研究の趣旨を説明し協力の同意が得られた学生の「読書記録」(536回分)を使って分析を行った。選書理由については、記述式なので、その内容を類型化し整理を行った。

アンケート調査は、令和5年1月10日、同じく保育科2年生の「児童文学」を受講している学生に対して実施した(受講者は73名だが、そのうちアンケートの趣旨に同意し回収できた学生68名分を使用する)。アンケートの内容は、「自宅にある絵本の冊数」「幼少期の読み聞かせの

経験」「短大2年間で読んだ絵本の冊数」「短大2年間で購入した絵本の冊数」「実習中に読み聞かせた絵本のタイトルと選書理由」などである。

### 3. 結果

まず学生の絵本選択の現状を整理する前に、アンケート調査より学生と絵本の関わりとして「自宅にある絵本の冊数」「短大2年間で読んだ絵本の冊数」「短大2年間で購入した絵本の冊数」について報告をする。表1は学生の自宅におおよそどれくらいの絵本があるのか質問した結果である。

表1 自宅にある絵本の冊数

冊数	0-5	6-10	11-20	21-30	31-40	41-50	51-60	100	180	不明	合計
人数	10	16	15	11	2	7	2	2	1	2	68名

※1人暮らしをしている学生は、実家にある絵本と現在、手元にある絵本のおおよその合計を回答している。

0冊から5冊の学生が10名（全体の14%）おり、6冊から10冊が16名（全体の25%）と最も多く、30冊までで52名（0-5冊10名、6-10冊16名、11-20冊15名、21-30冊11名の合計人数）となり全体の76%を占めている。つまり、全体の4分の3強の学生が30冊程度の冊数にとどまっている状態である。全体として多くはないが、100冊以上の絵本が自宅にある学生が3名いる。保育者養成校の学生の蔵書（絵本）を調べたものはないので、この調査結果が多いのか少ないのかは断定できないが、絵本を読もうと思って手元に十分な絵本を持っている学生はそう多くはないといえる。この冊数は現在の状況を質問しているので、学生の幼少期の絵本環境を表しているわけではないのだが、幼少期であっても絵本環境は類似する状況があったのではないかと推察される。

では、学生は短大の2年間で何冊ぐらいの絵本を読み、何冊ぐらいの絵本を購入したのだろうか。表2は短大で読んだ絵本の冊数と購入した絵本の冊数である。短大で読んだ絵本の冊数については、15冊（9名）、20冊（22名）、30冊（15名）に人数が集中しているが、20冊までで38名となっており、半数以上の学生が2年間の短大生活で20冊程度の読書にとどまっていることがわかる。保育所実習や幼稚園実習を終え、「児童文学」での10回の「読書記録」を終了した後のアンケート調査であるので、実際に読んでいる絵本の冊数はもう少し多いように感じられるが、少なめに記載している学生もいると思われる。少数ではあるが、50冊以上読んでいる学生もあり、これらの学生は短大の2年間で絵本を選択する目も養われていることが期待できる。保育科の学生の読書量が他大学との比較もないので全体的に少ないかどうかは断定できないが、少なくとも30冊以上の割合を増やしていくことが今後望まれるであろう。

表2 短大で読んだ絵本の冊数と購入した絵本の冊数

短大で読んだ絵本の冊数		短大で購入した絵本の冊数	
冊数	人数	冊数	人数
1	1名	0	6名
5	2名	1	8名
10	3名	2	9名
10～20	1名	3	6名
15	9名	4	3名
20	22名	5	20名
25	3名	6	3名
30	15名	7	1名
40	2名	8	1名
50	3名	10	6名
60	1名	15	1名
60～90	1名	20	3名
70	1名	不明	1名
100	1名	合計	68名
不明	3名		
合計	68名		

短大2年間で購入した絵本の冊数については、5冊に20名と人数が集中している。なかには、短大の2年間で1冊も購入していない学生が6名、1冊しか購入していない学生が8名、2冊しか購入していないのが9名と、2冊までであわせて23名にもなる。全体の3分の1強の学生が2年間で2冊程度しか絵本を購入していないことになる。5冊までで52名となり、全体の76%の学生が5冊程度までの購入ということになる。これは、学生の絵本に対する意識の低さだけではなく昨今の厳しい経済状況とも関連する結果だと思われるので、大学図書館などのより一層の充実を図っていかなくてはならないと考えられる。

学生は、どのようなタイミングで絵本を購入していたのだろうか。表3は、実習中の読み聞かせで使用した絵本をどのように用意したかを質問した結果である。保育の養成校では2年間、保育所や幼稚園、施設などで実習を行っているが、全ての実習で覚えている限りのものを回答してもらったので、1人の学生が複数回答している数値になる。

自宅にある自分の絵本を実習先の読み聞かせに活用している学生が最も多いが、表2では比較的わずかな絵本しか購入していない学生も、実習の読み聞かせ用の絵本として絵本を購入している状況が表3からは確認できる。1人で複数冊購入している学生もいるので、購入している実人

数は63名よりも少ないが、実習での絵本の読み聞かせが絵本を購入するきっかけとなっているといえる。園（施設）にあった絵本を読み聞かせに使用する学生もそれなりに多く、大学から借りた絵本を使用する学生は意外に少なかった。

表3 実習中に使用した絵本をどのように用意したか？

項目	人数・割合
自分の絵本（自宅にあった絵本）	73名(30%)
新たに購入した	63名(27%)
園（施設）にあった絵本	63名(27%)
大学から借りた絵本	24名(10%)
他の図書館から借りた絵本	12名(5%)
友人から借りた絵本	2名(1%)
合計	237人(100%)

次に学生が絵本を読み、提出してもらった「読書記録」をもとに学生の絵本選択について整理していきたい。今回73名の児童文学受講者から提出してもらった9回分の課題（536回分）のうち、学生から選択された絵本のタイトルで多かったのは表4の通りである。

表4 学生の読書記録に多く採用された絵本のタイトル

ぐりとぐらシリーズ	16回	わたしのワンピース	6回
バムとケロシリーズ	15回	パパ、お月さまとって！	6回
こぐまちゃんシリーズ	14回	からすのパンやさん	6回
はらぺこあおむし	13回	ぐるんぱのようちえん	6回
だるまちゃんシリーズ	13回	どうぞのいす	6回
ねずみくんの絵本シリーズ	10回	パンダ銭湯	5回
おばけのてんぷら	10回	おれたち、ともだち！シリーズ	5回
くれよんのくろくん	9回	しんごうきピコリ	5回
きんぎょがにげた	9回	わにわにシリーズ	5回
へんしんシリーズ	9回	おおきな木	4回
パンどろぼうシリーズ	9回	もったいないばあさん	4回
そらまめくんシリーズ	8回	ぜったいにおしチャダメ？	4回
てぶくろ	7回	だいすきぎゅっぎゅっ	4回
にじいろのさかな	7回		

学生には特に絵本のジャンルや絵本の対象年齢は指定せず、自由に絵本を選んでもらった。子どもへの読み聞かせをするための選択ではないが、ほとんどの学生は幼児向けの絵本を選択し感想を書いていた。表4に示されている学生から多く採用された絵本は、大半が創作絵本である。なかにはシリーズものが目立ち、それらは複数冊での採用回数であるが、そうでない「はらぺこあおむし（13回）」「おばけのてんぷら（10回）」などは単独での採用回数である。札幌えほん研

研究会が2012年に発行した『どの本読もうかな 355冊の絵本－読み聞かせ絵本の手引き－』のなかにもある絵本が多く、過去の保育者養成校における学生からのアンケート結果からも同じような絵本のタイトルがあがっている<sup>1</sup>。つまり、保育科の学生は、ある一定期間読み継がれている評価の定まった絵本を選択する傾向にあるといえる。ただし、表4にある「しんごうきピコリ」（2017年刊行）「ぜったいにおしちゃダメ？」（2017年刊行）「パンどろぼうシリーズ」（2020年以降刊行）などは刊行されて間もない絵本ということもあり、先行研究にはない絵本のタイトルも一部見受けられる。

では、学生はどの作家の絵本を読んでいたのだろうか。表5は、学生が多く選択していた作家とその絵本である。表5に関しては、シリーズものもそれぞれ1冊ずつわけて整理してある。五味太郎とせなけいこの絵本の「読書記録」は、当初から多い傾向にあったため、「児童文学」の授業のなかでもこの2人の絵本作家や作品について触れることがあった。その影響もあってか、その後もこの2人の作品の「読書記録」が継続的に提出され上位になったと思われる。島田ゆかや林明子の絵を好む学生が多く、この2人の絵本も学生に多く選択されている。その他の絵本作

表5 学生が多く選択していた作家とその絵本

<p><b>五味 太郎 10 作品</b>  「おまちしてます」「たべたの だあれ」「窓からのおくりもの」「きんぎょがにげた」「とうさんまいご」「きいろいのはちょうちょ」「ひよこはにげます」「さる・るるる」「ばく・くくく」「はやくあいたいな」</p>
<p><b>せな けいこ 8 作品</b>  「おぼけのてんぷら」「ねないこだれだ」「ゆうれいのたまご」「おぼけなんてないさ」  「めがねうさぎのうみぼうずがでる！！」「おつきみおぼけ」  「めがねうさぎのクリスマスったらクリスマス」「くいしんぼううさぎ」</p>
<p><b>島田 ゆか 8 作品</b>  「バムとケロのもりのこや」「バムとケロのにちょうび」「バムとケロのおかいもの」  「バムとケロのそらのたび」「バムとケロのさむいあさ」「うちにかえったガラゴ」  「かばんうりのガラゴ」「ブーちゃんとおにいちゃん」</p>
<p><b>林 明子 7 作品</b>  「こんとあき」「おつきさまこんばんは」  「はじめてのおつかい」作：筒井 頼子「いもうとのにゅういん」作：筒井 頼子  「あさえとちいさいいもうと」作：筒井 頼子「おいていかないで」作：筒井 頼子  「おふろだいすき」作：松岡 享子</p>
<p><b>ヨシタケ シンスケ 7 作品</b>  「あつかったらぬげばいい」「つまないつまない」「もうぬげない」「このあとどうしちゃう」  「おしっこちょっぴりもれたろう」「りんごかもしれない」  「いいね！」作：筒井 ともみ</p>
<p><b>中川 ひろたか 6 作品</b>  「ありがとう」絵：あべ 弘士「大きくなるっていうことは」絵：村上 康成  「クリスマスオールスター」絵：村上 康成「みんなともだち」絵：村上 康成  「ロケットペンギン」企画・原案：ロケットくれよん 絵：北村 人</p>

学生の絵本選択に関する現状と課題（山田千春）

「でんせつのじゃんけんバトル」 文：ドリユー・デイウォルト 絵：アダム・レックス 訳：中川 ひろたか
<b>柴田 ケイコ 6 作品</b> 「パンドろぼう」「パンドろぼう おにぎりぼうやのたびだち」「ばばんがパン」 「パンドろぼうとなぞのフランスパン」「ぼめちゃんとだっくすちゃん」「ばなしくん」
<b>中川 李枝子(文)・大村 百合子(絵) 6 作品</b> 「ぐりとぐら」「ぐりとぐらのおきゃくさま」「そらいろのたね」 「ぐりとぐら うたうた 12 月」「ぐりとぐらのあいうえお」「『ぐりとぐら』のカステラをつくろう！」
<b>tupera tupera 5 作品</b> 「やさいさん」「パンダ銭湯」「いろいろバス」「しろくまのパンツ」「くだものさん」
<b>長 新太 4 作品</b> 「ピアノの音」「イカタコつるつる」「キャベツくん」「キャベツくんとズタヤマさん」
<b>内田 麟太郎 4 作品</b> 「ともだちや」「ごめんねともだち」「ともだちくるかな」「あれってしてる？」
<b>なかえ よしを(文)・上野 紀子(絵) 4 作品</b> 「ねずみくんのチョコッキ」「ねずみくんとゆきだるま」「ねずみくんおおきくなったらなにになる」 「ねずみくんはカメラマン」
<b>なかや みわ 3 作品</b> 「そらまめくんの新しいベッド」「そらまめくんとめだかのこ」「そらまめくんのベッド」

家も、長い期間継続して作品に対して高い評価を得ているため、学生からも選ばれる結果となっている。このなかで着目したいのがヨシタケシンスケ、柴田ケイコ、tupera tupera（亀山達矢と中川敦子によるユニット）である。ヨシタケシンスケは 2013 年、柴田ケイコは 2016 年、tupera tupera は 2004 年にそれぞれ絵本を出版し始め、表 5 にある他の絵本作家から比較すると絵本作家としては新しいが、出版された絵本が評価されているため、学生の「読書記録」のなかにも度々登場する結果となっている。

最後に、その絵本を選択して読んで感想を書こうと思った選書理由についてみていきたい。表 6 は、その絵本を選択した理由である。選書理由は、記述式で回答してもらったので、内容的に似ているものを表 6 の 17 項目に分類していった。人数の数値は、9 回分の「読書記録」提出の数（受講生 73 名×9 回分）である（回ごとに未提出者もいる）。「幼少期から読んでいて、好きな絵本だから（151）」が全体の 28% と圧倒的に多かった。実習での読み聞かせの選書理由では、「行事・活動・道徳・季節による視点」をあげた学生が多く、「子どものころ好きだった絵本を選んだ」学生は少数にとどまっていた（渡邊・井口・横田 2021）のと異なる結果になっている。実習とは絵本を読む目的が異なるので、選書理由も変わってきているのであろう。「幼少期から読んでいて、好きな絵本だから」は、「家にあったから」とも似ていて、おそらくこれらの幼少期からのお気に入りの絵本は手元（自宅）にある状態のものが多く、学生がすぐ課題に取り組みやすい状態にあったために選ばれたとも考えられる。幼少期からの読み聞かせの経験も含め、家

表6 絵本選択した理由

理 由	人 数
幼少期から読んでいて、好きな絵本だから	151
実習との関連	83
絵・タイトル・表紙に惹かれた	80
子どもへの効果が期待できる	38
大学の授業をきっかけに知った	33
自分が探していた絵本だから	24
好きな絵本作家の他の絵本を読んでいたから (○○シリーズの他の絵本が読みたかったから)	24
有名な絵本だからこの機会に読んだ	22
内容が面白そうだから	21
今の季節に合いそうだから	16
家にあったから	10
人から絵本をプレゼントされたから	6
タイトルは知っていたけど詳しい内容がわからなかったから	5
アニメや映画などでやっていたから	5
仕掛けがあるから	4
子どもに人気があるから	3
その他	11
合 計	536

庭の絵本環境が学生の絵本選択に最も影響を与えているといえる。

次に多かったのが、「実習との関連 (83)」である。「実習との関連」とは、具体的に「ちょうど1年前の保育実習の部分実習で読み聞かせを行い、どんな本を読んだのかももう1度確認したかったから」「以前、実習で子どもたちに読み聞かせをしたとき、とても反応がよく、楽しそうな姿を見ることが出来たから」「昨年の保育所実習のときに、子どもたちが発表会でこの劇をするための練習をしていたのを思い出して読み返そうと思ったから」「実習先でばばあちゃんの装飾があり、ばばあちゃんシリーズで1番好きだった『ばばあちゃんのおもちつき』を再び読みたくなったため」「保育実習で、保育者が乳児に対して読んでいた本でした。その際にいろいろな表情が描かれていてかわいらしい絵本だなと思ったからです」「実習に行った際に『パンどろぼう』の絵本がシリーズで教室に置いてあって、子どもたちにすごく人気で一緒に読んでみると面白くて、新しいのが出たということを知って読んでみたいと思ったから」などである。さらに、実習で得た経験は、「子どもへの効果が期待できる (38)」、「今の季節に合いそうだから (16)」



「子どもに人気があるから (3)」などの選書理由にもつながっている。「子どもへの効果が期待できる」とは、具体的に「子どもたちの前で読み聞かせをする時に、友だちとの関係性について少しでも意識してほしいと感じたため」「お手伝いが題材ということで、お手伝いに興味関心を持ち始める時期に読むとお手伝いの意欲をかきたてることができるのではないかなと思い選びました」「小さい年齢の子どもでも交通ルールがわかりやすく、楽しく学べそうな絵本だと感じ、読んでみました」「いつか子どもたちが経験するであろうおつかいを題材とした絵本なので、子どもたちも内容に触れやすいと感じたからです」などの記述である。このような選書の視点を持つようになったのも学生が実習を経験したからではないかと考えられる。また、保育現場では、行事や季節にあった絵本を読み聞かせる場面も多くあるので、「今の季節に合いそうだから」という選書理由も実習の経験から意識するようになったのではないと思われる。

「絵・タイトル・表紙に惹かれた (80)」のように視覚的に絵本を選んでいる学生も多い。具体的には、「絵が分かりやすく、タイトルからどのような本の内容なのだろうと興味を持ったからです」「すごくかわいいイラストと、どういった内容なんだろうという表紙のワクワク感からこの本を選びました」「絵本の表紙がきらきらとしていて興味が湧いたため」などである。

「大学の授業をきっかけに知った (33)」もそれなりの数である。具体的には、「講義のなかで乳児向けの絵本の紹介があり、『いないいないばあ』は知っている人が多いと聞いたため読んでみたいと思いました」「前回の授業で、『はらぺこあおむし』についてふれたので、エリック・カールの絵本を読んでみようと思いました」「前回の児童文学の講義のなかでこの本が出てきていて、子どもの頃大好きでよく妹と読んでいたこの本をもう一度読みたいと思ったから」「2年生前期の授業でこの絵本を読んでいる人がいて、とても絵が可愛かったのと擬音語の使用が面白いと感じたため」「保育実習指導でおぼけのてんぷらのペープサートを見たのですが、『おぼけのてんぷら』は読んでことがなかったので選びました」「授業内でA先生が読んでくださり、とても印象に残り、いい子ってどんな子だろうと考える機会となったからです」などである。

「自分が探していた絵本だから (24)」とは、「わくわくするような子ども向けの絵本ではなくて自分が読んで感動するような絵本を通して、園児と同じ気持ちを感じられるよう感動するような絵本を読みたかったからです」「言葉を楽しめる絵本を知りたかったから」「縦型の絵本を読み聞かせで使用してみたいと感じたため」「2歳児への読み聞かせで視覚的に楽しむことができる絵本を探していたから」など目的を持って絵本を探した結果、今回選んだ絵本はその目的にかなっていたという意味である。

多くはないが、「人から絵本をプレゼントされたから (6)」というケースもみられた。子どもだけではなく、学生に対しても絵本のプレゼントは本を読んでもらう効果的な方法かもしれない。

以上のように、学生は子どもの頃からの絵本環境や絵本体験をベースに、実習の経験や授業で得た知識、それを踏まえこんな絵本を読みたいなどの個人の関心から絵本を選択し「読書記録」を提出したいことがわかる。

#### 4. 結果からの考察

以上のような分析結果をまとめると、学生の絵本選択の現状と課題について以下のことがいえる。

学生と絵本との関わりについては、自宅に絵本が100冊以上ある学生も少なからず存在していたが、全体の4分の3強の学生が30冊程度にとどまり、自宅にある絵本の冊数は総体的に多いとはいえない。また、短大2年間で学生が読んだ絵本の冊数も半数以上が20冊程度におさまっており読書量が多いとはいえない現状にあった。読書量が少ないため、1冊1冊の絵本についてしっかりと「読み」(読解)ができていくかどうか不安な面がある。今回は取り上げなかったが学生の感想文からもそのように感じられる記載がみられた。短大2年間で学生が購入した絵本の冊数も4分の3強の学生が5冊程度にとどまり、全体的に少ないながらも実習のときに読み聞かせようとして購入しているケースが多くみられた。一方、実習時の読み聞かせで大学の絵本を借りる学生は意外に少なく、学生の絵本環境の乏しさを補うまで大学図書館が十分に活用されていない状況にあった。

学生の「読書記録」を整理してみると、学生が多く取り上げていた絵本は、ジャンルが創作絵本に偏っているが、札幌えほん研究会が発行した『どの本読もうかな 355冊の絵本—読み聞かせ絵本の手引き—』のなかにもある絵本が多く、時代の流れに淘汰されることなく読み継がれている絵本を取り上げる傾向にあった。学生に人気があった絵本作家についても、長きにわたって評価され続けていた絵本の作者を選ぶ傾向がみられたが、なかには、最近、刊行された絵本でも現在人気のある絵本の作家を好んで選択する学生もみられた。

絵本の読書量が総体的に乏しい学生を含む絵本の選書には、幼少期からの絵本環境や絵本体験が最も大きく影響していることがわかった。その次に2年間を通したいくつかの実習先での経験が学生の絵本の選書に関係していた。学生は、実習での絵本の読み聞かせの経験や実習先で絵本に触れるという経験を通して絵本選択に悩みながらも、絵本のレパトリーを増やしていたということが確認できる。大学の授業で学んだ絵本を選ぶ学生もいたが、幼少期からの読書経験や実習先での経験から比較するとその数は少数にとどまっていた。つまり、大学における絵本の指導に関しては、学生にそれなりの影響を与えているものの、幼少期からの絵本体験の不足を十分に補うまでには至っておらず、実習先での絵本の体験を理論的に振り返る機会も少ないといえる。

以上のことから、保育者養成校における今後の絵本指導のあり方について次の4点がポイントとなる。第1に、絵本の読書量を増やす指導の継続である。今回、「児童文学」のなかで実施した「読書記録」を次年度も継続し、学生の絵本の読書量を増やしていく取り組みが必要である。今回は、特に絵本のジャンルは指定しなかったが、学生に絵本のジャンルを丁寧に説明し、創作絵本に偏らない多様なジャンルの絵本を読んでもらう機会を作る必要があるだろう。学生は自宅にある絵本で手軽に課題を済ませてしまう傾向にあったが、この課題を機会にまだ読んだことの

ない絵本を読んでもらうようにするなど「読書記録」のルールを設けることによって新規の絵本を読む機会を与えていくことができるのではないかと考える。

第2に、1冊の絵本をより深く読み込む授業を設定することである。今回の「児童文学」の授業においては、絵本や作者の紹介を行ったが、1冊の絵本について学生がじっくりと読むような授業は実施しなかった。「読書記録」の感想を読んでも、絵本の内容を十分に捉えきれていないような感想もあった。保育者が内容を咀嚼していないまま、単に子どもの前で機会的に読むという読み聞かせが起きてしまう可能性も考えられるので、読書不足からくる読解力を磨いていけるような授業の取り組みが必要となってくるであろう。

第3に、科目担当者間の連携を図ることである。絵本に関する指導は、「児童文学」だけではなく、「幼児と言葉」「保育内容（言葉）」「教育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅰ～Ⅲ」「保育・教職実習演習」などでも行っている。1人の担当者がこれら全ての科目を持つことはなく、複数の担当者で授業が行われている。これらの科目担当者間で2年間の見通しを持った絵本指導を立案し計画的に取り組んでいくことによって、養成校での授業が幼少期の絵本環境や絵本体験の乏しさを補い、実習先での経験の理論的なフィードバックへとになっていくのではないだろうか。家庭での読書量が乏しい学生にとって大学教育の有効性が試されるところでもある。

第4に大学図書館での授業の取り組みを通して、図書館利用の活性化を図ることである。本学の図書館には、約6,900冊の絵本がある。他の保育者養成校の絵本の蔵書数はわからないのははっきりとしたことはいえないが、比較的多い数の絵本であると思われる。しかし、実習中に読み聞かせた絵本を大学から借りた学生は、のべ24名（回答者の10%）にとどまっている。今回は普段の図書館からの貸出状況は聞いていないので、図書館の利用頻度までは、はっきりとしたことはわからないが、学生の利用頻度はそう高くないことが予想される。図書館で行う授業を設定したり、図書館を利用した学習活動を行ったりして、学生の図書館の利用頻度を高めていくことにつなげていきたい。なかなか気軽に絵本を購入することができない状況にある学生にとっては、大学図書館の果たす役割は大きいと考える。図書館への利用へとつなげていくことのできるような授業の取り組みを実践していきたい。

## 5. まとめと今後の課題

本稿は、保育者養成校における学生の絵本選択の現状と課題を学生から記載してもらった「読書記録」とアンケート調査を中心に分析し、今後の保育者養成校における絵本指導のあり方について考察した。考察の結果、次年度は、学生の絵本の読書量を高めていく指導とともに1冊の絵本を深く読み込んでいく指導、絵本の指導を行っている科目間での計画的な指導、大学図書館の利用活性化につながる授業の取り組みなど4点を導き出すことができた。

最後に今後の課題を2点述べておきたい。1つは、研究のねらいや目的を明確にしたうえで授業を実践することである。学生に課題として取り組ませた「読書記録」は、このような学生の絵

本選択の現状を分析するためにスタートしたものではなかったが、学生の選択する絵本と選書理由にある傾向がみられたので、いったん文章としてまとめてみることを試みた。保育者養成校における卒業間近な学生の絵本との関わりや選書傾向を描くことができたと思うが、授業をスタートする段階から研究のねらいや目的を明確に持ち「読書記録」の内容を検討して学生に取り組みせることによって、さらに別な角度からの情報を学生から引き出すことが可能だったのではないかと考える。本研究では今後の絵本指導のあり方として4つの取り組みを導くことができた。なかでも、学生の絵本の読書量を高めていく指導とともに1冊の絵本を深く読み込んでいく指導を中心に次回は実践の報告を行っていきたいと考えているので、事前に研究のねらいや目的を明確にしてから取り組むようにしていきたい。

もう1つは、学生の読書量によって絵本の選書に違いがみられるのかどうかについて言及することができなかった点である。短大2年間で絵本の読書量が多い学生とそうでない学生の選書の違いを比較することによって、その点を触れることがある程度可能だったと思われる。学生の絵本選択の全体的な把握のみに終始してしまっただが、読書量の多い学生とそうでない学生を比較することによって、もっと深い議論が本稿で展開できたのではないと考える。

学生の「読書記録」からは「人から絵本をプレゼントされたから」読んでみたという選書理由があったように、読書を活性化させるため、保育者養成校の学生にも絵本をプレゼントするような企画を考えみることも、有効な手立てとなりうるであろう。

### 【参考文献】

- 大野鈴子 (2015) 「子どもと共に絵本を楽しむために－学生に必要な実践力とは－【実践報告】」『環太平洋大学研究紀要』9, 53-61
- 梶谷恵子・脇 明子・湯澤美紀・片平朋世 (2015) 「保育者を対象とした絵本選書の研修：共通テーマによる絵本三冊の比較」『ノートルダム清心女子大学紀要』39 (1) (人間生活学・児童学・食品栄養学編) 133-141
- 札幌えほん研究会 (2012) 「どの本読もうかな 355冊の絵本－読み聞かせ絵本の手引き－」
- 並木真理子 (2014) 「幼稚園入園年齢4歳児への読み聞かせにおける絵本の選書理由および保育者の読み聞かせスタイルの検討：降園前」の読み聞かせ場面に着目して」『チャイルド・サイエンス』10, 66-70
- 藤岡久美子・伊藤恵理奈 (2016) 「幼稚園における絵本の読み聞かせの選書の分析」『山形大学教職・教育実践研究』11, 59-68
- 古川元視 (2021) 「大学生の絵本に関する調査研究の一考察－就学前から中学生までの絵本体験－」『センターレポート』40, 19-26
- 三木麻子 (2019) 「保育者養成と絵本研究の方法」『夙川学院短期大学教育実践研究紀要』13, 44-49
- 峰本義明 (2017) 「絵本の学びに対する学生の意識－絵本探究の授業実践を基に－」『新潟青陵大学短期大学部研究報告』47, 1-12
- 横田由紀子・渡邊 舞・井口美和 (2021) 「学生の絵本の選書意識に関する研究－絵本に関する授業前後の意識調査による考察－」『紀要』51 (札幌大谷大学紀要編集委員会 編), 9-42
- 渡邊 舞・井口美和・横田由紀子 (2021) 「保育者養成校における絵本の選書に関する研究：保育所実習と幼稚園実習の比較」『豊岡短期大学論集』17, 185-194

**【注】**

- 1 例えば、三木（2019）は、入学前の国語課題として提出した同級生に薦めたい絵本と入学後の授業のなかで書かせた推薦本の一覧を整理している。渡邊・井口・横田（2021）は、保育所実習と幼稚園実習で読み聞かせを行った絵本を学生からの質問紙調査をもとに、それぞれ一覧表に整理している。